基調説明

**２０１９年度　ＳＣ大阪事業の重点について**

**１　ＳＣ大阪　会員数の推移**

令和元年度　　［会員数　１９４，５２５人（▲6,167人）］　［クラブ数　３，１１８クラブ（▲59クラブ）］

平成３０年度　［会員数　２００，６９２人（▲8,368人）］　［クラブ数　３，１７７クラブ（▲６７クラブ）］

平成２９年度　［会員数　２０９，０６０人（▲6,006人）］　［クラブ数　３，２４４クラブ（▲52クラブ）］

平成２８年度　［会員数　２１５，０６６人（▲6,844人）］　［クラブ数　３，２９６クラブ（▲65クラブ）］

平成２７年度　［会員数　２２１，９１０人（▲5,357人）］　［クラブ数　３，３６１クラブ（▲47クラブ）］

**２　女性リーダーに期待すること**

　　①市町村老連女性部会の活躍はクラブ全体の活性化に必要不可欠である。

　　②これからの老人クラブに求められていることは、未加入者が入りたくなる組織づくりである。

　　③時代のニーズに合った女性ならではの発想で、事業の企画・運営を進めることが大事である。

　　④加入促進への積極的な参画。

　　⑤単位クラブで会長の後継者がいない時は、女性が積極的に後継者となる。

**３　老人クラブ高齢消費者被害防止キャンペーン**

**～高齢者自らが主体となって地域の高齢者を守る～**

　　①女性リーダーが中心となって「見守りサポーター」養成への取り組みを推進する。

　　　　⇒　女性会員全員が「見守りサポーター」として被害防止に努める。

　　②「見守りサポーター」の役割

　　　ⅰ情報を伝える

　　　ⅱ困っているサインを気にかける

　　　ⅲ被害防止のため関係機関につなげる

　　③街頭キャンペーンで地域住民へ直接被害防止の啓発を実施。